

良材を用いた上質なつくりで、洗練された優れた意匠を有しており、高い価値が認められる。また大規模な近代和風住宅で、主屋ほか、内蔵、物置、外風呂、外蔵など屋敷全体の構成を完存している点においても価値が高い（文化庁ホームページより）

旧 吉松家住宅は、その名の通り、かつて吉松家の居宅として利用されてきました。吉松家は今から500年ほど前、福岡の甘木から高鍋・串間へ配置換えとなった秋月氏に従って串間にやって来た武士の家柄で、幕末期に吉松卓蔵が市木川北郷の庄屋となったことで串間の歴史にその名が登場します。その後、卓蔵の子・忠敬、忠敬の子・忠俊の3代にわたり、山林取得と木材商いによって財をなしました。

時は流れ、住む人を失った屋敷は荒廃し、取り壊しの危機に瀕しますが、その建築的価値を知る市民の訴えにより、2003年（平成15）に串間市が購入。翌2004年（平成16）に国の登録文化財に、2008年には国指定重要文化財に指定されました。徹底的に凝られたデザインと、随所に見られる高度な建築技術、そして、こだわり抜かれた良質の建材は、まさに近代和風建築の粋であり、築後1世紀近くが経過する今も当時のままの趣をたたえています。



主屋や蔵、そしてそれを取り囲む石塀と三つの門。大正時代の富豪住宅のすべてが良好な状態で残されています

〈旧吉松家住宅の概要〉

- 敷地面積：約950坪
- 部屋数・畳数：20部屋〔和室19、洋室1〕・135.5畳
- 主な材質：スギ、マツ、サクラ、ケヤキ、カヤ、クワ、クロガキ、ヤシなど



中庭を正面に望む茶の間

やっぱりすごい！

吉松家の人々

卓蔵～忠俊の3代は政界にも進出し、串間だけでなく宮崎の政治・経済を牽引しました。

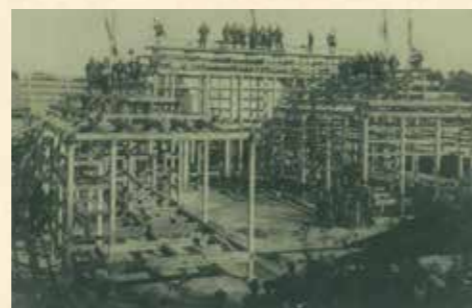
- ◆吉松 卓蔵（1838～1929）
市木川北郷庄屋／「戊申の役」や「西南戦争」に従軍／初代福島村長
- ◆吉松 忠敬（1865～1937）
第3代北方村長／第7代福島村長／県議会議員／衆議院議員／国鉄日南線の敷設に尽力
- ◆吉松 忠俊（1885～1941）
第6代福島町長／県議会議員



吉松 忠敬



吉松 忠俊



1919年に行われた主屋の上棟式

全国に誇れる建築的価値

ここがすごい！
旧吉松家住宅

2008年（平成20）、串間市で唯一の国指定重要文化財に指定された旧吉松家住宅。1919年（大正8）の上棟から100年を迎えるにあたり、あらためてその価値に迫ります。